

学 校 名	山形市立第六小学校 山形市鉄砲町二丁目 9 - 5 5 TEL 622-0656 FAX 633-9341	校 長	椎名 和美
		研究主任	細谷 あゆみ
研 究 主 題	<p>心をかたむけてかかわり，自分を高める子どもの育成 ～互いのよさを認め合い，学ぶ楽しさを実感できる授業作り(2年次)～</p>		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、『たくましく生きる力のある子ども』の育成を学校教育目標に掲げ、次のような子どもの姿をめざして教育活動を行っている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(1) わかるまであきらめない子 (確かな学力) (2) 相手に認められる活動ができる子 (豊かな心) (3) 自分を自分で守れる子 (健やかな体)</p> </div> <p>この学校教育目標を具現化していくためには、子ども自身が物事を自分事としてとらえ、社会や他者と関わりながら自己実現していこうとする「自立」と「共生」が必要不可欠と考えている。</p> <p>社会的背景から</p> <p>今、子ども達を取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。子ども達が成人して社会で活躍する頃には社会構造や雇用環境が大きく変化し、子ども達が就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されている。特に、情報化の進行は著しく、子ども達の日常の中にも広がりを見せている。</p> <p>こうした時代の変化の中で、自分を見失うことなく未来を切り開いていくためには、個別の知識・技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力といったスキル、そしてどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという学びに向かう力や人間性が重視されている。</p> <p>これまでの取り組みと児童の実態から</p> <p>本校の研究は平成22年度から子どもの人としての育ちに目を向け、自分を高める子どもの姿をめざして研究を進めるようになり、平成23年度には、研究テーマを『心をかたむけてかかわり、自分を高める子どもの育成』とし、深い子ども理解と、子どもにとって価値ある教育活動の展開を研究推進の視点として継続して取り組んでいる。</p> <p>平成27年度からサブテーマ「互いのよさを認め合い，学ぶ楽しさを実感できる授業づくり」を設け、授業づくりにおいて共通の視点を持ち、学年の枠を超えて理想とする授業の在り方を考えてきた。また、日々の授業は、学級という集団の中で温かな人間関係を築き、自己存在感や有用感を得ながら個が成長する時間であり、課題解決の過程で自己決定力を培う場であるととらえ、生徒指導の3機能が生かされる授業作りに取り組んできた。</p> <p>このような教育活動を通し、本校の子ども達には学びに向かう意欲的な姿や他者を意識し願いをもって取り組む姿、自分達で考えたためあてに向かって見通しをもって進めていこうとする姿が多くみられるようになってきた。学習にも真面目に一生懸命取り組み、友達の話に黙って耳を傾けることができるようになってきている。しかし、社会的な背景に照らし合わせて考えると、自ら課題を見つける力や自分から関心を引きつけて人や物、事に関わっていく力はさらに培っていく必要があると考える。</p>		

めざす子どもの姿	<p>(1)「自分を高める子ども」について 「自己肯定感をもち、身に付けた資質や能力を主体的に発揮しながら自分の願いを実現していこうとすること」と捉える。</p> <p>(2)「心をかたむけてかかわる」について 子供達が自分を高めるためには、対象(①～③)を自分の事として実感をもってとらえ考えていくこと、即ち、心をかたむけてかかわることが必要になってくる。</p> <p>①自分自身 ・・・自分の内に沸き起こってきている思考や感情にしっかりと向き合う。</p> <p>②自分を取り巻く人 ・・・他者の存在・発言を自分に引きつけ、自分の考えや意見とのかかわりにおいてどうなのかな、と考えながら誠実に向き合う。</p> <p>③自分を取り巻く物、事 ・・・自分のくらしとのかかわりを考え、大切にしようとする。</p>
研究の内容と方法	<p>(1) 教育活動全体を通して研究テーマに迫る</p> <p><u>①子どもが思考し、自己決定する場を大切にしていく</u> 子ども達の学校生活の中には、「自分を高める」チャンスが溢れている。学習場面に限らず、学校行事や特別活動、日常の様々な場面において、子どもの活動を保障し、励まし、時には選択肢や選択基準を示したり、一緒に考えたりしながら自己決定力を育てていくことを共通理解して教育活動を行っていく。</p> <p><u>②教師の授業力・協働性を高める</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年経営案に研究テーマや今年度の重点に向けた具体的な取り組みを明記することで、学年のチーム力を活かしながら、目標に向かって共に学んでいく協働性を高めていく。 ・日常的に取り組んだ実践や、授業作りの成果と課題、子どもの変容、または授業作りへの悩みなどを語り合い、情報交換を密にしていく。 ・校内研究についての資料や研究授業の指導案、事後研究会の記録などを、各自その都度ファイルし、研究の学びを研究集録として残していく。 ・学ぶ楽しさを「実感する」子どもの姿をどうとらえ見取っていくのか、授業研究会を通して語り合い、子ども、教師、学級の強み、価値を発見していく。 <p>(2) 互いのよさを認め合う学級基盤をつくる</p> <p><u>①学級力を高める</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級で大切にしたい8つの力を子どもと教師とで共有し、学級力向上に向けて取り組んでいく。(附属新潟式学級力をベースに六小式学級力を模索していく。) <p><u>②各学級でスピーチ的な活動に継続して取り組む</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に自己存在感、友達と一緒に学び合う(語り合う・考え合う)楽しさを感じさせ、共感的人間関係を創り上げていく。 ・一人の子(発表者)の思いを理解し、その子の発言をきっかけに、他者の考えをつなげていくことを大切にする。 ・つぶやける力・質問できる力・経験と重ねて考え、補足できる力などを養う場にしていく。 <p>(3) 授業改善と研究会の充実</p> <p>◎今年度の重点</p> <p style="text-align: center;">～互いのよさを認め合い、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり～</p>

①子ども主体の授業をつくる

「学ぶ楽しさ」を教師が仕組んだ一過性の「楽しい学び」ととらえるのではなく、「学ぶことの楽しさ」ととらえ、将来につながる自己学習力を培っていききたい。授業を子ども主体のものにするために、次の3点を意識して単元・指導過程を構成していく。

追究

【自分を取り巻く物・事へ】

- ・ 追究可能な課題の設定明確で必要感があるもの
- ・ 追究していくためのゆさぶりや支援等
- ・ 自ら考え、表現し、自己決定していく場

協同

【自分を取り巻く人へ】

- ・ 大事にしている学級力が生きた部分
- ・ 共感的人間関係を生かし、育む学び合い
- ・ 追究の延長に生まれる交流

気付き

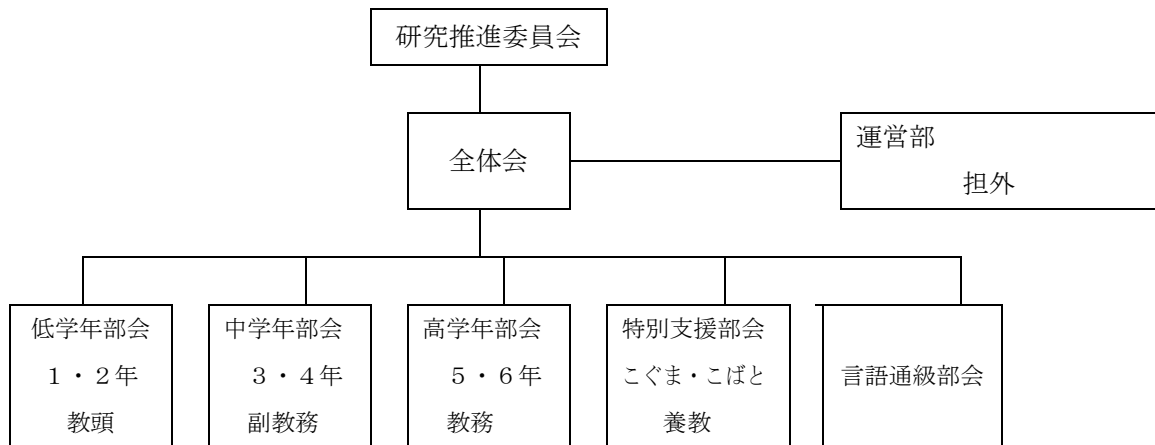
【自分自身】

- ・ 学習内容についての気づき
- ・ 学び方についての気づき
- ・ 友達についての気づき
- ・ 自分自身についての気づき
→ 次への意欲、問いを生む
- ・ 自己存在感を味わう瞬間

②子どもの姿で語り合う

授業を参観の視点を「学ぶ楽しさを実感している姿」とし、子どもの具体的な姿を根拠として共有することで、何が見え、どのように解釈し、価値づけたのかを語り合っていく。

1 研究の組織



2 授業研究会の進め方

- 各学年・特別支援・言語通級から1名の授業を大研とし、校外から指導者を招聘し全体で事後研究会を行う。事前研究会は学年で検討した上で、学年部会で実施する。(授業研究会の事前研予定は全体に知らせ、部会員以外の人にも自由に参加できるようにする。)
- 大研を行わなかった人の授業は小研とし、学年単位で事前・事後研究会を行う。
- 授業研究会の記録については、学年で話し合い分担して作成し、研究だよりとして全員に配付する。
- 研究概要、指導案、研究だより等は各自その都度ファイリングし、今年度の研究紀要としていく。(外部提出分等増刷分も含め、職員数+30部印刷し、30部は保管しておく。)
- 記録写真は学年で分担して残しておく。指導案、研究だより、記録写真のデータを学年で確実に残していく。

研究の計画

月 日	内 容	
4月25日(月)	研究全体会①	今年度の研究の方向性・学級力についての共通理解
6月21日(火)	研究全体会②	講師を招聘した研修会 (野口准教授)
7月11日(月)	大研1	6年 (佐々木)
29日(金)	研究全体会③	講師を招聘した研修会
10月21日(金)	大研2	1年 (岩崎)
11月4日(金)	大研3	5年 (加藤)
24日(木)	大研4	特別支援 (橋本)
12月2日(金)	大研5	3年 (小川)
19日(月)	大研6	言語通級 (大橋)
27日(火)	研究全体会④	講師を招聘した研修会 (野口准教授)
1月18日(水)	大研7	4年 (枝松)
2日(木)	大研8	2年 (東海林)
2月22日(水)	研究全体会⑤	今年度の成果と課題を確認 来年度の研究の方向性について話し合う。